29. 10. 31
佐倉市 教育センターだより Vol.43
平成29年10月31日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486)2400　http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0-0_6.html

佐倉の古からの訓え「成徳作用」

～「生きる力」を強靭化するため，バックボーンにプラスα～

佐倉市教育センター所長　古 林　聖 哉

各校には，子どもや地域の実態に合わせた教育目標が設定されています。また，校歌の歌詞や校訓として目標をあらわしています。ときには小学校では「○○小っ子」，中学校では「○○中魂」などと抽象化されて表現される場合もあります。運動会などで，「がんばれ，○○っ子なんだから」とか，部活動で，「相手に○○中魂を見せてやれ」などと励ます場面が見られます。これにより，子どもたちの共同意識や団結力が高まり，想定以上のパフォーマンスを発揮することは経験上よくあります。

子供たちが，将来に夢と希望が持てる学校を創生していかなければなりません。学校・保護者・地域の総意による目標「学びの地図」を共有し協働していくことで実現します。同時に各学校は，**教育課程をなお一層工夫改善する**必要があります。これにより文科省が提唱する**「教育の強靭化」**を図ることができると思います。

次期学習指導要領では，「社会に開かれた教育課程」として示され，待ったなしの喫緊の課題となっています。急激な社会の構造変化が進み，不透明な時代と言われている環境のもと，子どもたちの「たくましく」「しなやか」に**生きる力**を一層確実に育てるためには，これまでの教育実践の蓄積を基盤にし，さらに**フレキシブルな対応としてプラスα**の取り組みが必要になります。このプラスαの第一の候補が『佐倉学』と考えられます。

「社会に開かれた教育課程」では，各学校は地域の実態を考慮したうえで，「必要な資質能力」はどのようなものであり，「学習内容」をどのように学び，身に付けるようにするのかを明確にしていかなければなりません。ここで佐倉の古からの訓え『成徳作用』の精神が手掛かりになるのではないでしょうか。

『成徳作用』は，江戸時代に**『学ぶことは，徳を成すこと，用を作すこと』**であるとした佐倉藩の教育理念です。意訳すると「学ぶことは，人として徳のある人間になること，人のために学んだことを生かすこと」です。

このことは，次期学習指導要領で謳われている子どもたちに育成すべき資質能力である**「どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか」**に通じています。

郷土佐倉は古くからこの『成徳作用』の精神に基づいた人材育成を行い多種多様な有為な人材（右表）を多く輩出してきたことを子どもたちに，『佐倉学』を通して教えていきたいものです。

特に幕末の動乱期を先見をもって見事に切り抜けた先哲たちの活躍は，教育・文化・芸術・農業・工業など多様な分野にわたり，驚きと同時に興味深いものがあります。

『成徳作用』の精神や『一芸一術の制』（自分の長所）を生かし，学んだことを自由な発想で発展させて，見事に社会へ貢献した佐倉の自慢の先覚者たちです。子どもたちが予測困難な未来社会を乗り切っていくうえでの学びに大いに参考となるのではないでしょうか。

子どもたちは，これから社会の中で多くの選択や課題等により，決断を迫られることになります。その決断を支える一つのバックボーン（背骨）として，子どもの頃の地域環境（自然・文化・教育等）が育んだ『生き方』が，大きく影響すると思います。それは，表面的なものではありませんが背骨のように重要で，堅く一本筋が通っており，子どもたちの心を支えてくれるものになることでしょう。

各学校が，子どもたちの「生きる力」を支えるバックボーンとなる精神的支柱を育成し，不透明な社会に前向きに立ち向かっていけるようにすることが，「強靭な教育」の推進を図ることになるのではないかと考えます。『佐倉学』が「教科横断的（横方向の連携）」と「幼小中の校種間連携（縦方向の連携）」を基盤として進み，継続的に実践していくことで，この精神的支柱（『成徳作用』の精神）も育んでいくことが可能になるのではないでしょうか。『わたしは，佐倉の子』という意識が，明るい社会創造に向けてパフォーマンスを発揮することへの一助になるよう，佐倉市教育センターでも『佐倉学』の推進に尽力してまいりますので，ご協力をよろしくお願いいたします。

佐倉ゆかりの先哲と多様な業績

1	土井　利勝	佐倉城を築く江戸幕府最初の大老，徳川家康と親戚
2	堀田　正盛	徳川３代将軍家光の親友
3	堀田　正順	佐倉学問所（藩校）創設
4	堀田　正睦	開国に貢献，一芸一術の制
5	堀田　正倫	佐倉高校設立
6	渋井　太室	成徳作用，上杉鷹山の先生
7	平野　重久	佐倉城無血開城
8	佐治　　済	老躯にむちうち地域貢献
9	林　　薫	外交官，榎本武揚の義弟
10	佐藤　泰然	順天堂病院設立，医は仁術
11	佐藤　尚中	順天堂大学の設立
12	佐藤　　進	東洋人初のドクトル（医学士）
13	松本　　順	新撰組の主治医，大磯海水浴場創設
14	浜野　　昇	学校での健康診断，結核撲滅制度の創始者
15	西村　茂樹	道徳教育の先駆者，福沢諭吉の同僚
16	佐藤　志津	鹿鳴館デビュー，女子美術大学初代校長
17	津田　　仙	日本で最初の通信販売，青山学院設立
18	津田　梅子	日本女性の地位向上，津田塾大学設立
19	香川　松石	書道教育を全国に普及
20	石川　照勤	成田高校設立
21	倉次　　亨	佐倉茶の普及，天狗党討伐
22	西村　勝三	リーガル（製靴）創始者
23	大塚岩次郎	宮内庁御用達の製靴店
24	岩井勝太郎	印旛沼治水開発に尽力
25	香取　秀真	佐倉初の文化勲章受章者
26	香取　正彦	平和の鐘（広島市）製作
27	津田　信夫	メタルアートの巨人
28	浅井　　忠	日本洋画界の基礎を築く
29	都鳥　英喜	浅井忠のいとこ，洋画界の第一人者
30	手塚　律蔵	英学者，福沢諭吉と同僚，木戸孝允の先生
31	木村軍太郎	佐倉藩に西洋式兵制を導入，天狗党討伐で成果
32	佐波銀次郎	免許皆伝の剣豪，英語堪能，北海道探検調査
33	高橋　　卯	太陽暦導入，関流和算を代表する数学者
34	鏡　　光照	数学の通信教育会社を設立
35	依田　学海	森鴎外の漢文の師，脚本家，劇作家
36	大築　尚志	西洋砲術により富国強兵政策に貢献
37	大築　尚正	日本初のロシア留学生，ロシア交渉の通訳
38	大築　節蔵	日本初の英書の翻訳，法律家として政府に貢献
39	佐藤百太郎	百貨店の創始者

平成２９年度　佐倉市教育センター等報告会より

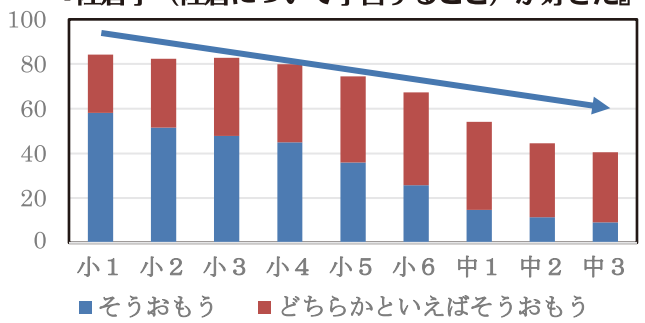
【第１報告】次期学習指導要領とこれからの『佐倉学』～深めよう『佐倉学』～

第１報告では，佐倉学の現状と佐倉学に対する児童生徒及び市民の声を明らかにするとともに，次期学習指導要領の内容を踏まえ，これからの佐倉学の推進に向けて報告を行いました。
また，根郷小学校校長　諸根 彦之　先生に『佐倉学の意義と佐倉の教育』というテーマで，ご講話をいただきました。

1　『佐倉学』に対する意識調査から

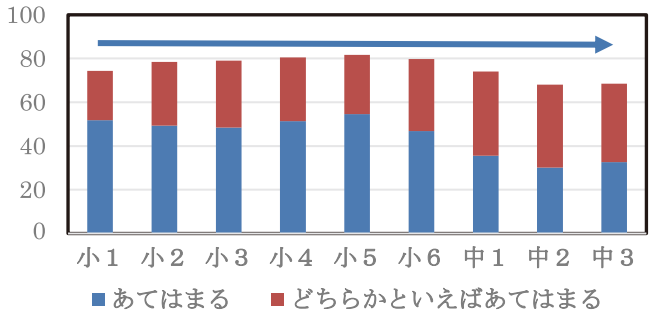
【小中学生】

『佐倉学（佐倉について学習すること）が好きだ』



○『佐倉学』に対する興味関心が，学年が上がるにつれて低くなっています。

『地域の祭りなどに参加している』

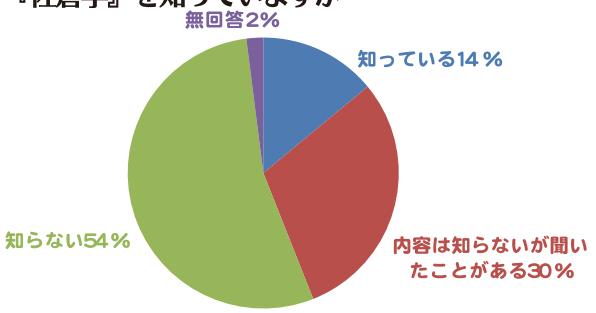


○「佐倉の魅力あるもの」に対してはどの学年も興味関心が高いことがわかります。

◎授業の中で，『佐倉学』をもっと意識させる工夫が必要であると考えられます。
◎学習時間を確保するために内容の精選と教育課程を工夫していくことが重要です。

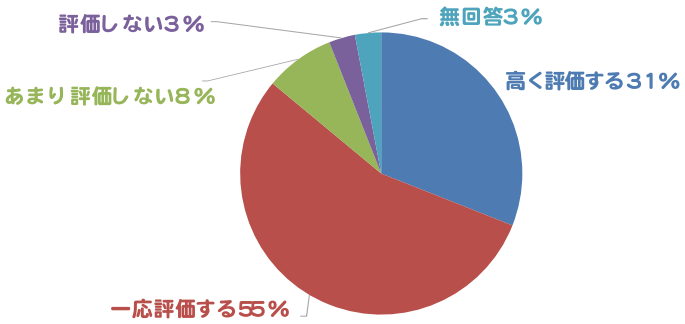
【佐倉市民】

『佐倉学』を知っていますか



○市民の『佐倉学』に対する認知度はまだまだ低いことがわかります。

小中学校での『佐倉学』の授業の実施への評価



○市民の『佐倉学』に対する評価は高いといえます。

◎『佐倉学』に対する認知度を高める工夫が必要であると考えられます。

2　講話　『佐倉学の意義と佐倉の教育』（根郷小学校長　諸根　彦之　先生）より

『佐倉学』の理念の中心は，「成徳作用」すなわち「真心をもって生き（徳を成す），人々の役に立つ仕事ができる（用を作す）」人材の育成にあることを強く意識していくことの重要性を教えていただきました。
「自分が生まれ育ったこの佐倉から，新しい時代に貢献するために学び近代日本の礎を築いた人々がいることを学び，自分の故郷について知り，これからの自分の生き方や日本の在り方について考えることが，やがて自らのルーツやアイデンティティーの確立につながっていく。だから，「ふるさと佐倉」について学ぶことはとても意義がある。」こと，また，古くから人々が暮らしてきた佐倉には，魅力あるものがまだまだたくさんあり，それらをもっと活用していける可能性についても言及されていらっしゃいました。

3　これからの『佐倉学』

『佐倉学』を教育課程の中で明確に位置づけ，計画的に進めるとともに，佐倉学道徳教材の改善･活用を推進し，道徳の特別の教科化に向けた準備と工夫を行う等，『佐倉学』の内容の充実を図っていきます。
また，「佐倉学検定」を実施し，『佐倉学』への取り組みを奨励していきます。「成徳作用」「好学進取」という『佐倉学』の理念の実現に向けて，また，「ふるさと佐倉」のますますの発展に向けて，子供たちとともに市全体として，学び続けていくことが大切であると感じています。これからもさらに研鑽と修養を重ね，『佐倉学』を深めていきたいと考えています。

【第２報告】特別支援教育におけるキャリア教育～就学における特別支援教育の在り方～

教育センターでは，昨年度，年間３７９９件の相談がありました。そのうち就学相談は５８９件で，電話相談，来所相談，学校訪問を通して行ってきました。こうした相談は年々増加傾向にあり，学校，保護者，地域に特別支援教育の必要性が高まり，同時に理解されてきていると思います。

今回は，さらに小中高においてキャリア教育の視点からみた就学相談の在り方について，特に高校進学に視点を置き，現状と課題を報告しました。

また，特別な支援を要する生徒の公立高等学校への進学選択について，県立佐倉南高等学校長 中原 章子 先生より「互いを認め，共に育つ学校であること　～佐倉南高等学校の特別支援教育～」をテーマにご講話いただきました。

特別支援学級在籍生徒の義務教育後の進路について

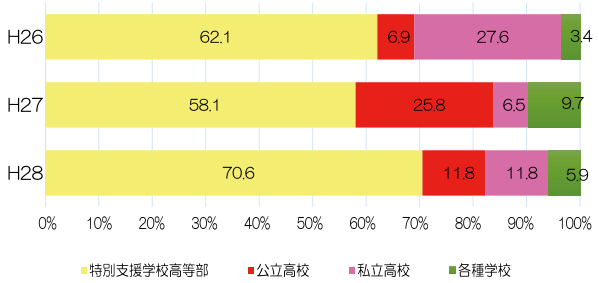
佐倉市における義務教育後の進路状況

	就職	進学	各種学校	家庭	施設利用
平成26年度	0%	96.6%	3.4%	0%	0%
平成27年度	0%	90.3%	9.7%	0%	0%
平成28年度	0%	94.1%	5.9%	0%	0%

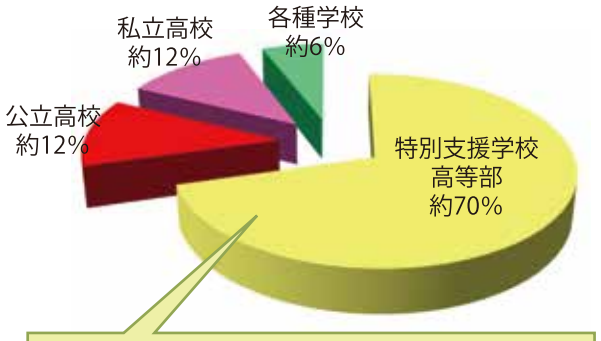
高校または，各種学校へ１００％の就学

義務教育後の就学状況は，１００％の生徒が高等学校または，各種学校への就学になります。将来の自立に向け，さらに上級学校での知識•技能等の習得を重ねる必要があると生徒•保護者が考えていることがわかります。

進学における進路区分



H28年度進路区分



特別支援学校高等部の多様化
・園芸技術科・生活デザイン科・流通サービス科
・工業技術科・普通科

特別支援学校への進学が近年増加傾向にあるのは，各地域に特別支援学校高等部が設置され，園芸•生活•流通•工業技術科，そして普通科など学ぶ場の多様化が見られる様になったことや生徒の特性にあった科を選択できるようになったことがあげられます。なにより，その生徒の発達段階に合わせたキャリア教育が実践されていることが大きな理由としてあります。

県立佐倉南高等学校長　中原 章子 先生より

通常の高校進学の選択において大切なことは，「その生徒の特性や能力に合った進路先を長期的視野（就労）に立って就学相談を行っていく」とのお話がありました。それは，高校受験において，特別な支援を要する生徒に対してできるだけの配慮はするものの，合格基準は一般で受ける生徒と同じであること，また義務教育の時のように支援員が付いて個別での対応はないこと等を踏まえ，自力解決をしていけるかを考え選択する必要があるとのことでした。

上記のことを参考に受験する学校の特色や対象となる生徒の特性を十分に把握し，実態に大きなずれがないかを保護者，生徒，学校とで十分に話し合うとともに，対象となる高校の正確な情報収集や受験前に中学校と高校との連携を図ることが大切であるとの話がありました。

まとめ

特別支援教育におけるキャリア教育は，個にあった場所で個の力を最大限に伸長し，生徒一人一人が社会に貢献していけるようにすることであり，「生きる力•生き抜く力」に繋げていくことが重要です。

【第3報告】次期学習指導要領の観点からみた佐倉市学習状況調査の結果分析
～主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善へ～

佐倉市学習状況調査は，佐倉市内全児童生徒を対象に実施しています。次期学習指導要領で示された「主体的•対話的で深い学び」の視点から佐倉市学習状況調査を分析•考察し，資質•能力の育成を目指した授業改善について提案します。（今回は報告の一部の掲載です。）

1 主体的・対話的で深い学びの視点について

【主体的な学び】
- ○学ぶことに興味や関心をもつ。
- ○見通しをもって粘り強く取り組む。
- ○自己の学習を振り返って次につなげる。

【対話的な学び】
- ○子供同士の協働。
- ○教職員や地域の人との対話。
- ○先哲の考え方を手掛かりに考える。

【深い学び】
- ○知識を相互に関連付けてより深く理解する。
- ○問題を見いだして解決策を考える。
- ○情報を精査して考えを形成する。
- ○思いや考えを基に創造する。

2 学力の傾向と分析　～平成28年度佐倉市学習状況調査結果より～

（1）算数・数学

【課題】
- ▲基礎となる計算に要素がいくつか加わった計算
- ▲式とグラフを関連付けること（関数）

＜基礎となる計算＞
小学５年：$\frac{3}{4} - \frac{2}{3}$

→ ＜要素が加わった計算＞
$1\frac{1}{3} - \frac{5}{6}$

＜基礎となる計算＞
中学１年：（－21）÷7

→ ＜要素が加わった計算＞
30÷（－5）×（－2）

（2）理科

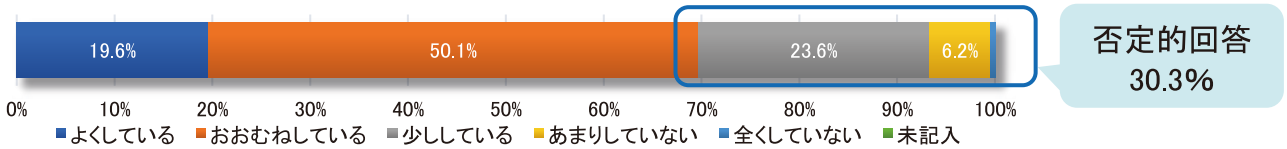
【課題】
- ▲視覚的に捉えにくい内容
- ▲関連させて考察すること
- ▲新たに学習する語句の定着

小学4年：とじこめた空気や水の性質
小学6年：ものが燃えた後の酸素と二酸化炭素の割合
中学1年：離れていてもはたらく力

3 教諭等意識調査の傾向と分析　～平成28年度佐倉市学習状況調査結果より～

（１）「主体的な学び」に関する意識調査

授業の最後に，学習したことを振り返る活動を行っていますか



「少ししている」という回答を含む否定的回答の割合は30.3%でした。次期学習指導要領では，自分の学習活動を振り返ることにより，学ぶことに興味関心をもち，学びを次につなげ，主体的な学びを実現していくことが大切である，とされていますので，今後，振り返る活動の充実を図る必要があると考えます。発達段階に応じて，振り返りの視点を与える，または，意図的に示唆することも，児童生徒が，より主体的に学ぶことにつながるのではないかと考えます。

（２）「対話的な学び」に関する意識調査

グループや学級で話し合って考えを深める授業を行っていますか

否定的回答
32.7%

「少ししている」という回答を含む否定的回答の割合は32.7%で，改善の必要があるといえます。「問い」が生まれる授業，「協働」のある授業を意識するとともに，授業のどの部分で「対話的な学び」を行うと有効なのか，また，「対話的な学び」を行う際，ペア，グループ，全体のどの形が効果的なのかを意識することも大切であると考えます。

児童生徒の考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導を行っていますか

否定的回答
30.4%

「少ししている」という回答を含む否定的な回答の割合は30.4%でした。児童生徒の考えを引き出す発問の工夫や，考えを深めるような授業展開•指導の工夫改善について，今後は，さらに意識をして取り組むことが大切ではないかと考えます。また，指導技術を磨くために，互いの授業を見合うことも必要だと考えます。

4 次期学習指導要領の観点からみた授業改善例　※吹き出し中の①～⑤は学習手順を示しています。

（１）小学4年 算数

①既習の822÷3を筆算で解く。

②420÷4を筆算で解く。

4）420

③誤答を提示し，何が違うか，どうして間違えてしまったのか話し合う。

【誤答例】
15
4）420

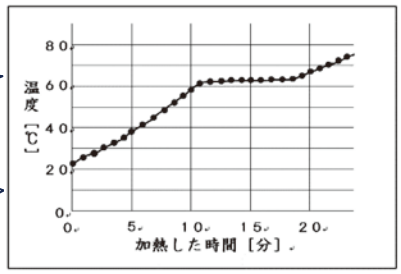
④類似の問題636÷6を筆算で解く。（検証）

⑤学習したことを振り返る。

（２）中学1年 理科

①温度変化を予想する。予想の根拠を明確にする。

③温度変化とパルミチン酸の変化を関連付けて考察する。



②実験を行う。

④多様な観点から，妥当性や信頼性について，批判的に捉えて見直す。

⑤質量を２倍にしたときや，他の物質ではどうなのかを予想する。

授業改善のポイント

- ○興味・関心をもたせる
- ○知識・技能を関連付ける
- ○根拠・理由を明確にする
- ○既習を生かす，振り返る
- ○情報を選択・精査する
- ○粘り強く取り組む
- ○対話・協働
- ○日常生活との関連を図る
- ○思考を深める指導・発問

「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取り組み，知識・理解の質を高め，資質・能力を育むことが大切です。各学校で分析結果を活用して自校の課題について検討する機会を持っていただき，今後に生かしてください。

教育相談基礎講座

～子供の持つ様々な問題解決に向けた指導力の育成～

学校現場では，不登校，いじめや暴力行為等の問題行動，子供の貧困，児童虐待等様々な難題が山積しています。児童生徒が安心して学校生活を送るために，また，適切な環境を構築するためには，教育相談は大変重要であると考えます。教育センターでは，毎年夏に教育相談の理論と技法の習得，そして児童生徒のもつ悩みや不安等，様々な問題解決に向けた指導力の育成を図るために，教育相談基礎講座を開講しています。今年度はのべ８１名の先生方が受講されました。講座内容は，実習も含めた教育相談の様々な内容を網羅しており，現場でもすぐに活用できることばかりでした。まだ受講されていない方は、来夏本講座で教師としての資質向上に努めてみてはいかがでしょうか。

今年度の講座内容（８月１日・２日・１０日実施）

講座①「教育相談の意義」	千葉大学　特命教授	滝本　信行　先生
講座②「インデントプロセスによる事例研究」	佐倉市立臼井中学校教諭	根本　栄治　先生
講座③「構成的グループエンカウンターの理論と実践」	佐倉市学校支援アドバイザー	山本　昌弘　先生
講座④「発達障害の理解と対応」	千葉県特別支援アドバイザー	比留間信夫　先生
講座⑤「問題行動や不登校児童生徒の理解と対応」	千葉県教育庁北総教育事務所指導室 指導主事	三好　啓太　先生
講座⑥「ミニ・カウンセリングの理論と実践」	佐倉市市民部自治人権推進課 公益活動支援コーディネーター	杉本　勉　先生

«受講生の声～研修成果報告書より»

- 子供の伝えたい気持ちや感情に注目して言葉を返すことの難しさや大切さを学んだ。
- ケース会議をインシデントプロセス法にするだけで，短時間でこんなにも具体的な方策が生まれるのかと驚いた。
- 構成的グループエンカウンターの理論と実践を通して，予防的・開発的教育相談の行い方やその注意点を実感することができた。
- 発達障害について，現状の理解から授業改善，子供が輝く学級作りに向けた様々な実践を知ることができた。
- 家庭環境，学習面，友人関係等，現在の子供の取り巻く環境は複雑になっている。全校の子供に目を向け，小さな違和感も見逃さない目を養いたい。
- 実習を通して，相手の話に十分に目と心で聞く大切さを学んだ。チャンス相談はいつでもできるなど，毎日子供としっかりと向き合うことの大切さを強く感じた。

まとめ　**教育相談とは，「児童生徒の自己実現を支援する，教育の基本姿勢」であり，生徒指導の中核的な機能であると共に，欠かすことができない技能です。多様な課題を抱えた子供たちが増える中，丁寧な対応により一人でも多くの子供達が明るく意欲的な学校生活を送れるよう，教育相談機能の充実を図っていきたいと考えます。**